

兵高教組

2026年5月15日

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL: 078-341-6745 FAX: 078-351-3185

URL: <http://www.hyogo-kokyoso.com>

mail: honbu@hyogo-kokyoso.com

調査情報 1号

2026年度教育長交渉実施

「従来の労使慣行を尊重するとともに 相互の信頼関係を大切に」教育長回答

4月28日、ひょうご女性交流館にて兵庫県高等学校教職員組合、兵庫県高等学校従業員組合と兵庫県教育長と勤務条件等の基本交渉をもちました。双方で従来の労使慣行を尊重するとともに、相互の信頼関係を大切にしながら、今後ともすすめていくことが確認されました。以下、発言要旨です。

「従来の労使慣行を尊重」

木村晶子教育長挨拶

- ・阪神淡路大震災を忘れず、そなえ、つなぐことで子どもたちにきずなの大切さ、防災意識を伝えていく。
- ・第4期ひょうご教育創造プランを根底にすえ、子どもたちが自ら育つ教育を推進していく。
- ・働き方改革をICTを活用しながら推進し、総業務量の削減をはかるとともに処遇改善も進めたい。
- ・高教組に対しては、従来の**労使慣行を尊重**すると共に、相互の信頼関係を大切にし、お互いの理解を深めながら誠意をもっていねいに対処いたしたい。

「教員の未配置問題は依然深刻な状況」

谷口春夫高教組委員長挨拶

昨年度、若年層だけでなく高齢者にも賃上げ実現したことは評価できるが、まだまだ**物価上昇に見合うものではなく**、さらなる待遇改善を求め。教職員の未配置の問題については依然深刻で、定員を充たしていない学校ではカバーをするため**教職員の勤務が大変な状況になっており**、解決をはかってほしい。このような現状があるためか**教員の志望者が低い状態**が続いており、このことがさらなる未配置を招くという悪循環を招いている。これらの

課題に対して有効な施策を実行していただきたい」

「兵庫の教育に未来がみえるような処遇改善を」 福田高従組委員長挨拶

現在の3Kの職場環境から従業員の採用辞退や離職率の高さが目立ってきている。若い職員は高齢層の**先輩を見て将来を想像し、希望がもてない**ようになっている。現在のすさまじい物価上昇に見合うだけの処遇の改善など県教委には本気の改革をぜひお願いしたい。



「教職員定数の抜本改善を」

「丁寧な人事を」 藤本書記長要求

教職員の長時間・過密労働を改善させることが目的だった給特法が改正されてからも学校現場の状況は何も変わっていない。ブラックとされる教職員の状況を改善するためには**教職員定数の抜本的改善が何としても必要**。精神疾患で休職される先生の数も高止まりしており、そのことが未配置の問題にも繋がっている。そんな中、初任者をはじめとする若年教職員が**配置をきっかけに休職したり離職するケース**が見られる。熱意をもって教員となった若者がそのような事情で教職を去ることは兵庫県の教育にとって多大なマイナスであり、より丁寧な人事を実施してほしい。また、60歳になると賃金が大きく下がる**現行の賃金制度は高齢者の士気を大きく下げるもの**であり、改善を求めたい。

「採用数の増加とあり方交渉再開を」

土居高従組書記長要求

校務員の採用試験が実施されるようになったが、毎年退職される正規職員が多いため退職者数に見合った数になっておらず採用数増加をお願いしたい。それとともに**実習員、調理員の採用試験の再開**を求め。また、教員以外の職員の精神疾患による病気休暇の対象期間180日を元に戻すことも引き続き求める。かつて実施されていた県教委と従業員組合のあり方交渉のような対話の場をぜひ復活してほしい。

「設置基準に基づいた老朽化対策を」

「調整額引き下げの見直しを」

上垣障教組委員長要求

設置基準に基づいて新設校だけでなく、今ある**特別支援学校の老朽化にも対応**してほしい。特別支援教育の現場では生徒の多様化に伴い多忙化が深刻で、教職員の加配が実現しても学校が回らない状況である。そんな中、生徒対応により生傷が絶えない教職員に対して昨年改正された給特法では、**調整額の引き下げや、担任手当が支給されない**という措置になった。これはとてもおかしなことであり、ぜひとも改善を求めたい。

